

こ う え ん た ん け ん 【低学年 2 - 4】

書く活動を取り入れ、価値に迫る工夫

- (1) 主題名 ありがとうの気持ち [2 - 4]
 (2) ねらい いろいろな人の世話になっていることに気付き、感謝する気持ちを育てる。
 (3) 資料名 「こうえんたんけん」
 (4) 授業の展開例

	学習活動	主な発問と児童の心の動き	留意点
導入	1 生活科での校外学習のことを見出す。	公園たんけんの時、どんなひみつを発見しましたか。 ・おもしろいブランコがあったよ。 ・そうじをしている人に話を聞いたよ。	自由に意見が言えるように、楽しい雰囲気づくりをする。
展開	2 資料を聞いて、話し合う。	先生が「ありがとうございますいっぱい」と言っているけど、どこに「ありがとう」があるでしょう。 ・自動車が止まってくれた。 ・公園をそうじしてくれる。 ・おかあさんが、冷たいお茶を入れてくれた。 おとなは、どんな気持ちで自動車を止めたり、掃除をしてくれたりしたのでしょうか。 ・子どもたちが困っているから、わたらせてあげよう。 ・危ない、子どもがけがをしては大変。 ・元気よく、遊んでほしいな。	黒板に地図を掲示し、場面ごとの絵を提示しながら、読み聞かせる。 場面ごとの絵を使って、「ありがとう」の場面を見つけさせ、それぞれ、だれのどんな行為になぜ「ありがとう」なのかはっきりさせる。 しっかり考えさせるために、自動車を運転している人やおじいさんなどの気持ちを書く活動を取り入れる。 どの場面でも、「ぼくたち」のことを思いやっていることに気付かせる。
開拓	3 自分たちの生活を振り返る。	みんなの周りには、どんな「ありがとう」がありますか。 ・おかあさんが、おいしいご飯をつくってくれた。 ・先生が、鉛筆を貸してくれた。 ・友だちが遊びに誘ってくれた。	「心のノート」p 42, 43を読んで、振り返りの手がかりにする。
終末	4 「ありがとう」の手紙を書く。	「ありがとう」を言いたい人に手紙を書きましょう。 ・注意してくれて、ありがとう。 ・給食の世話をしてくれて、どうもありがとう。	相手のことを思い、心を込めて書くよう、声かけをする。

じうへんたんけん

生かつかのべんせよ「ひで」、グループ「JR」と「ベースをきめで、」「うへんたんけんにいきました。

ぼくたちのグループは、ひがし 東「うへん にし 西「うへん みなみ 南「うへん」ベースです。

「わあ、こぐぞ。」

ひろしくさんをせんとりに、みんなはつせつてあるせだつました。

おうだんほびつのといりにきました。じゅう車がびとびとせつてきて、なかなかわたる「こと」ができません。

「こまつたな。たんけんのじかんがなくなりやつよ。」

すると、白いじどう車がとまつてくれました。せんたいがわのじぶつ車もとまつてくれました。ぼくたちは、あんしんしておうだんほびつをわたる「こと」ができました。

東「うへんにつきました。

「わあこ。」

みんな、おもこおもこにあわびせじめます。

「こらひ。」

じつえんにきていたおじいさんの「え」が、ひびきました。かつやくんが木のえだにとびつこい、ぶら下がりとついていたのです。

「えだがおれたらびつするんだ。大けがをするね。」

つわせ、西「うへん。

長いやかをあるこてきたので、のどがからからです。ぼくたちは木のかげにはこつて、すわりこみました。そして、水とうのお茶をぐいぐいのみました。

じつえんたんけんにこぐのならと、おかあさんと、いつもよつとめたくひやしたお茶を、たっぷりよくこしつてくれたおかげで、元氣が出しました。

歯みなかみ じつえんにつきました。

「このじつえん、きれいね。」

みおかやんが、こごめました。やつこくれば、「まへつもあつません。ぼくは

「うんにきこるおじさんには、きました。

「このうんは、だれがきれいにしてるんですか。」

するとおじさんは、につこりしていいました。

「ファンスのそとにほつきがあるだろう。このくんのおじこわんやおばあちゃんがあつまって、朝はやくそつじしてくるんだよ。おみたけに、元気よくあそんでほしこからね。」

ぼくたちも、につこりました。

「じゃあ、れよひなう。」

ぼくたちは、おじさんたちにあいさつをして、学校にかえりました。このもんのところで、先生が、まつていくれました。ぼくたちは、たんけんでのでき」と先生にほうまくしました。先生は、「ありがとうがいっぱいのたんけんだったわね。」とにつこりました。

活用に生かすための実践報告

「こうえんたんけん」

1 主題の設定

- ・日々の生活の中で、子どもたちはいろいろな人の世話になっているが、そのことに気付かないことが多い。この資料を通して、周りの人たちの温かい思いやりの気持ちに気付かせ、感謝の気持ちをもつことができるようになしたいと考える。
- ・地域の人にお世話になる生活科などの校外学習や交流会などの体験と関連付けて実施したい。

2 指導過程の工夫

- ・黒板全体に地図を書き、その上に場面の絵を示したり、ペーパーサートを動かしたりして、状況把握をしやすくする。
- ・終末に、指導者が、児童に当てた感謝の気持ちを表す手紙を紹介し、「ありがとう」を言われたときの気持ちよさを味わわせたり、日頃児童がお世話になっている人をゲスト・ティーチャーとして招き、児童に対する思いやりの気持ちを話していただいたりすることも考えられる。

3 発問の工夫

- ・注意してもらったのも「ありがとう」になるかどうか、いろいろな考えを引き出せるよう、補助発問を考えたい。その上で、注意してくれた人の気持ちを考えさせ、「けがをしないように」という思いやりの心がこもっていることに気付かせるようとする。

4 児童の反応（授業後の感想）

【身の回りの「ありがとう】

- ・お祭りの後、近所の人たちが、いっぱい落ちているゴミを拾ってきてきれいにしていました。
- ・筆箱がこわれたときに、自分で直せなくて困っていたら、おかあさんがテープでつけてくれました。
- ・けがをしたときに、保健室の先生がきず口をきれいにしてくれました。
- ・止まっているトラックのそばを自転車で通っていたら、トラックが動き出して、そこにいたおばあさんが「通ったら、だめ。」と注意してくれました。そのときはいやだなと思ったけど、よかったです。

5 実践者からの一言

- ・黒板に地図を書き、楽しい雰囲気の中で資料を提示し、学習を進めることができた。
 - ・注意してもらった人の気持ちを考えることで、これも「ありがとう」だと気付くことができた。そして、身の回りの「ありがとう」を見つけるときにも、注意されたことや、今まで意識していなかった「ありがとう」を見つける児童もいた。
 - ・おとなの人たちの気持ちを考えて書いたワークシートには、子どもたちを思う優しい気持ちが出ていた。しかし、時間がかかるてしまい、手紙を書く時間が十分とれなかった。取り上げる場面をしぶつたり、書く活動をどちらかひとつにするなどして、考えたり振り返ったりする時間をしっかりとるようにしたい。
 - ・地域や学校の実態や教師の願いに合わせて、場面を省いたり、「ありがとう」の内容を変えたりすることも考えられる。
- （地御前小学校　名越早苗）